

# 第55回全国広報広聴研究大会

## 自治体広報とSNS

### ～うまさぎっしり新潟から、ひろがる、つながる

インターネット利用者の過半数がツイッターやフェイスブックなどのSNSを利用している中、自治体でもSNSの活用が盛んになっています。双方向のコミュニケーションが可能なSNSを利用して情報を拡散（ひろがる）したり、共有（つながる）したりするにはどうすればいいのか。効果的な広報媒体としての自治体SNSの在り方を考えます。

#### ■プログラム 2018（平成30）年6月1日（金）

9:30～10:15	日本広報協会定期総会	13:30～14:30	講演 自治体SNSの現状と課題 ～SNSの特性に合わせた情報発信を 清家 順（有）ユニバーサルワークス代表 取締役
10:00～10:30	大会受付		
10:30～11:30	開会式、表彰式 挨拶 日本広報協会会長 新潟県 新潟市 祝辞 内閣府 総務省 全国広報コンクール表彰 内閣総理大臣賞 総務大臣賞 日本広報協会会長賞 読売新聞社賞	14:40～15:20	事例発表1 葉山町インスタグラムが人気アカウント になるまで ～「オフ会開催」と「ため口」でフォロワーを 増やす 神奈川県葉山町
11:45～12:15	特選団体事例発表 愛媛県内子町 広報紙町村部 静岡県 広報企画	15:30～16:10	事例発表2 新潟開港150周年記念事業の取り組み ～みなとまち新潟を世界に発信 新潟県新潟市
		16:10～16:15	閉会式

主催	公益社団法人日本広報協会、 新潟県、新潟市	後援	内閣府、総務省
協賛	全国知事会、全国市長会、全国町村会、日本新聞協会、NHK、新潟県市長会、新潟県町村会		
開催日	2018（平成30）年6月1日（金）		
全国広報広聴研究大会会場	新潟市民プラザ ホール（NEXT21 6階） 新潟市中央区西堀通6番町866 ※新潟市民プラザ（NEXT21）「古町」バス停下車、徒歩1分 ※ホテルイタリア軒「古町」バス停下車、徒歩5分	日本広報協会 定期総会会場	ホテルイタリア軒 5階 中宴会場トリノ 新潟市中央区西堀通7番町1574
募集人数	200人		
参加費	会員 7,200円（税込み） 会員外 11,310円（税込み）		
支払い方法	参加証・請求書を受け取った後、セミナー当日までに指定口座にお振り込みください。		
問い合わせ・申し込み先	申し込み書に必要事項をご記入の上、ファクスでお申し込みください。 公益社団法人日本広報協会・事業部 電話：03-5367-1701 ファクス：03-5367-1706 申し込み書は、当協会ホームページからもダウンロードできます。▶ <a href="http://www.koho.or.jp/">http://www.koho.or.jp/</a>		



13:30 ~ 14:30

講演

## 自治体 SNS の現状と課題 ～ SNS の特性に合わせた情報発信を

清家 順 (有) ユニバーサルワークス代表取締役

SNS は、フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、ユーチューブなど、ツール（サービス）によって、機能、利用者層、表現方法などが異なります。まず、何を目的に SNS を開設するのかを明確にし、それぞれの特性に合わせた素材（テキスト、写真、動画など）の準備・加工と、運用をしていくことが大切です。SNS を効果的に活用するためには、どのような工夫が必要なのか。自治体の参考事例から、これからの SNS のあり方を考えます。

### ■プロフィール

清家 順

1975（昭和 50）年生まれ。ISP（インターネットサービスプロバイダ会社）勤務を経て現職に。専門は、Web アクセシビリティ（自治体 Web サイトのバリアフリー度を調べる「Web アクセシビリティ調査」などを実施）、Web 制作。全国広報コンクールウェブサイト部門審査委員。



14:40 ~ 15:20

事例発表 1

## 葉山町インスタグラムが人気アカウントになるまで ～ 「オフ会開催」と「ため口」でフォロワーを増やす

神奈川県葉山町

人口 3 万人の葉山町のインスタグラムフォロワーは現在 17,000 人以上いますが、開設当時は 1 か月で 100 人にも到達しませんでした。そこからオフ会を開催してフォロワーの意見を聞き、「毎日投稿」や「友達に語るような文章表現」など、行政らしくない親近感のある工夫でフォロワーを増やしました。このほか、「# 葉山歩き」というキーワードを作り、投稿されたフォロワーの写真を厳選して写真展を開催したり、フォトブックを発行したり。さまざまな取り組みで、町の魅力を発掘・発信しています。



15:30 ~ 16:10

事例発表 2

## 新潟開港 150 周年記念事業の取り組み ～ みなとまち新潟を世界に発信

新潟県新潟市

新潟港は 2019 年 1 月に開港 150 周年を迎えます。市では、これを新しい新潟を切りひらくスタートの機会として位置付け、記念事業実行委員会を結成。ロゴマークやキャッチコピーの制定や、新潟発の新ブランド「Nii port」を立ち上げるなど、市民団体や企業と連携しながら「みなとまち新潟」の歴史や文化を、SNS や公式サイトなどを活用して世界に発信しています。